

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価1-1】専任教員の配置状況

学科の名称	専任教員数						非常勤 教員	専任教員一人 あたりの在籍 学生数	備考
	学科長	主任 教員	教員	計	基準数	うち言語 聴覚士数			
言語療法学科	1人	人	4人	5人	5人	4人	52人	12人	
計	1人	人	4人	5人	5人	4人	52人	12人	

【自己評価1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	言語聴覚士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	言語聴覚士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	言語聴覚士である専任教員の配置人数が適正でない。	1

【自己評価1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

新教育課程表 (2025年度より)

分野 (基礎・ 専門基礎・ 専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当コ マ数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・ 兼任)
基 礎 分 野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解 言語聴覚療法の基盤	教養セミナー	8	田中 美紀 他	専任
		心理学概論	15	城下 未来	専任
		日本語表現法	8	古市 寛	兼任
		芸術論	15	坂中 淳	兼任
		文献研究論	8	中尾 佳布	専任
		カウンセリング論	8	城下 未来	専任
		文化人類学	8	畠山 均	兼任
		教育学	15	柳田 泰典	兼任
		福祉援助論	8	柏木 伸子	兼任
		生物学	8	久保 惣二郎	兼任
		統計学	8	中道 隆広	兼任
		情報工学	15	町田 勝広	兼任
		物理学	8	吉武 輝美	兼任
		英語1	15		
		英語2	15		
		保健体育1	8	森 日香里	兼任
		保健体育2	8	池田 広樹	兼任
		キャリア教育1	8	城下 未来 他	専任
		キャリア教育2	8	田中 美紀 他	専任
		ホスピタリティー論1	8	田中 美吉子	兼任

		ホスピタリティー論2	8	田中 美吉子	兼任
		ホスピタリティー論3	8	田中 美吉子	兼任
		音楽療法	8	栢田 素子	兼任
		栄養学	8	吉田 大輔	兼任
		関係法規	8	城下 未来 他	専任
		レクレーション技法	8	平山 仁 他	
		手話	8		
		医療・福祉と社会問題	15	田中 未来 他	専任
		コミュニケーション体験論	30	城下 未来 他	専任
専門基礎分野	人体のしくみ・ 疾病と治療	医学概論	8	松屋 福蔵	兼任
		解剖学A	23	河野 武	専任
		解剖学B	15	河野 武	専任
		生理学	23	中尾 夕子	兼任
		生理学実習	15	介田 圭	兼任
		臨床運動学	8	小谷 泉	兼任
		病理学概論	8	熊谷 謙治	兼任
		内科学	15	野中 和樹 他	兼任
		小児科学	8	佐藤 美悠 他	兼任
		精神医学	15	鎌田 秀一 他	兼任
		リハビリテーション医学	8	福田 健一	兼任
		耳鼻咽喉科学	15	田中 藤信 他	兼任
		臨床神経学	15	河合 正行	兼任
		形成外科学	8	水野 明夫	兼任
		臨床歯科医学口腔外科学	15	中村 修二 他	兼任
		呼吸発声発語系の解剖生理	15	田中 美紀 他	専任
		聴覚系の解剖生理	15	中尾 佳布	専任
		神経系の解剖生理	15	安藤 隆一	専任
		画像診断学	8	平尾 真希	兼任
	呼吸リハビリテーション	8	江里口 康子	兼任	
	脳神経外科	8	小野 智憲 他	兼任	
	心の働き	臨床心理学	8	城下 未来	専任
		臨床心理検査法	23	城下 未来 他	専任
		生涯発達心理学	15	城下 未来 他	専任
		学習認知心理学	15	橋口 晋	兼任
		心理測定法	15	橋口 晋	兼任
	言語とコミュニケーション	言語学	15	松崎 舞子	兼任
		音声学1	15	笹栗 淳子	兼任
		音声学2	15	笹栗 淳子	兼任
		音響学	15	山口 雅史	兼任
		聴覚心理学	8	藤沢 望	兼任
		言語発達学	15	當麻 利香子 他	兼任
	社会保障・教育とリハビリテーション	社会保障制度	8	飛永 高秀	兼任
リハビリテーション概論1		15	小谷 泉 他	兼任	
リハビリテーション概論2		8	安藤 隆一 他	専任	
専門分野	言語聴覚障害総論	言語聴覚障害概論	30	安藤 隆一 他	専任
		言語聴覚障害診断学	30	田中 美紀 他	専任
		言語聴覚障害学セミナー	30	安藤 隆一 他	専任
	言語聴覚療法管理学	言語聴覚療法管理学	15		
		リスク管理学	8	早井 あかね 他	兼任
	失語・高次脳機能障害	失語症1	15	田中 美紀	専任
		失語症2	30	田中 美紀 他	専任
		失語症3	15	田中 美紀 他	専任
		高次脳機能障害1	15	河野 武 他	専任
		高次脳機能障害2	15	河野 武 他	専任
	言語発達障害学	言語発達障害学1	15	宮原 亜理紗	兼任
		言語発達障害学2	30	宮原 亜理紗 他	兼任
		言語発達障害学3	8	宮原 亜理紗	兼任
		脳性麻痺	15	大山 智恵美	兼任
		重複障害	8	町田 勝広 他	兼任
	発声発語・摂食嚥下障害学	音声障害	23	安藤 隆一	専任
		運動障害性構音障害	23	河野 武	専任
		機能性構音障害	23	田中 美紀	専任
		器質性構音障害	15	草場 謙至 他	兼任
		嚥下障害1	15	中尾 佳布 他	兼任

		嚥下障害2	8	河野 武	専任
		吃音	15	江頭 聡子	兼任
	聴覚障害学	小児聴覚障害1	15	安藤 隆一	専任
		小児聴覚障害2	15	古賀 涼 他	兼任
		成人聴覚障害1	23	安藤 隆一	専任
		成人聴覚障害2	8	中尾 佳布 他	兼任
		補聴器・人工内耳	15	松下 展久 他	兼任
		視覚聴覚二重障害	8	古場 かおり 他	兼任
	地域言語聴覚療法	地域言語聴覚療法学	15		
	臨床実習	臨床実習1	20	城下 未来	専任
		臨床実習2	60		
臨床実習3		340			

旧教育課程表 (2025年度以前)

分野 (基礎・ 専門基礎・ 専門)	相当授業 科目名	担当コ マ数	担当教員		
			氏名	職名 (専任・ 兼任)	
基礎 分野	人文科学	日本語表現法	8	古市 寛	兼任
		芸術論	15	坂中 淳	兼任
		文献研究法	15	城下 未来	専任
		カウンセリング論	8	城下 未来	専任
	社会科学	文化人類学	8	畠山 均	兼任
		教育学	15	柳田 泰典	兼任
		福祉援助論	8	鹿山 誉史	兼任
	自然科学	生物学	8	久保 惣二郎	兼任
		統計学	8	中道 隆広	兼任
		情報工学	15	河野 武	専任
		物理学	8	吉武 輝美	兼任
	外国語	英語1	15	RICHEL CALZADA	兼任
		英語2	15	RICHEL CALZADA	兼任
	保健体育1		8	白川 美和	兼任
	保健体育2		8	白川 美和	兼任
	ホスピタリティー論1		8	田中 美吉子	兼任
	ホスピタリティー論2		8	田中 美吉子	兼任
ホスピタリティー論3		8	田中 美吉子	兼任	
専門 基礎 分野 医療系	医学総論	8	松屋 福蔵	兼任	
	解剖学A	15	河野 武	専任	
	解剖学B	15	安藤 隆一	専任	
	生理学A	15	中尾 夕子	兼任	
	生理学B	15	戸田 一雄	兼任	
	生理学実習	15	介田 圭	兼任	
	病理学	8	熊谷 謙治	兼任	
	内科学	15	野中 和樹 他	兼任	
	小児科学	8	佐藤 美悠 他	兼任	
	精神医学	15	鎌田 秀一 他	兼任	
	リハビリテーション医学	8	福田 健一	兼任	
	耳鼻咽喉科学	15	田中 藤信 他	兼任	
	臨床神経学	15	河合 正行	兼任	
	形成外科学	8	水野 明夫	兼任	
	臨床歯科医学口腔外科学	15	中村 修二 他	兼任	
	呼吸発声発語系の解剖生理	15	田中 美紀	専任	
	聴覚系の解剖生理	15	河野 武	専任	
神経系の解剖生理	15	安藤 隆一	専任		
心理 学系	臨床心理学	8	城下 未来	専任	
	臨床心理検査法	23	城下 未来 他	専任	
	生涯発達心理学	15	城下 未来	専任	
	学習認知心理学	15	橋口 晋	兼任	
	心理測定法	15	橋口 晋	兼任	
言語 学系	言語学	15	松崎 舞子	兼任	
	音声学1	15	笹栗 淳子	兼任	
	音声学2	15	笹栗 淳子	兼任	
	音響学	15	山口 雅史	兼任	
	聴覚心理学	8	藤沢 望	兼任	

社会福祉教育	言語発達学	15	當麻 利香子 他	兼任
	社会福祉制度	8	飛永 高秀	兼任
	リハビリテーション概論1	15	小谷 泉 他	兼任
	リハビリテーション概論2	8	安藤 隆一 他	専任
	関係法規	8	田中 美紀 他	専任
専門分野	I. 言語聴覚障害総論			
	言語聴覚障害概論	30	安藤 隆一 他	専任
	言語聴覚障害診断学	30	田中 美紀 他	専任
	言語聴覚障害学セミナー	30	足立 耕平 他	兼任
	II. 失語・高次脳機能障害学			
	失語症1	15	田中 美紀	専任
	失語症2	30	田中 美紀 他	専任
	失語症3	15	田中 美紀 他	専任
	高次脳機能障害1	15	河野 武 他	専任
	高次脳機能障害2	15	河野 武 他	専任
	III. 言語発達障害			
	言語発達遅滞1	15	末次 由佳	専任
	言語発達遅滞2	30	末次 由佳	専任
	言語発達遅滞3	15	末次 由佳	専任
	脳性麻痺	15	内野 真梨子	兼任
	重複障害	8	町田 勝広 他	兼任
	IV. 発声発語嚥下障害学			
	音声障害	23	安藤 隆一	専任
	運動障害性構音障害	23	河野 武	専任
	機能的構音障害	23	末次 由佳 他	専任
	器質性構音障害	15	石橋 伸子 他	兼任
	嚥下障害1	15	河野 武 他	専任
	嚥下障害2	8	河野 武	専任
	吃音	15	江頭 聡子	兼任
	V. 聴覚障害学			
	小児聴覚障害1	15	末次 由佳	専任
	小児聴覚障害2	23	古賀 涼 他	兼任
	成人聴覚障害1	23	安藤 隆一	専任
	成人聴覚障害2	8	安藤 隆一	専任
	補聴器・人工内耳	15	松下 展久 他	兼任
視覚聴覚二重障害	8	古場 かおり 他	兼任	
臨床実習	240	末次 由佳 他	専任	
選択必修分野	言語聴覚障害学特論1(リスク管理)	8	早井 あかね 他	兼任
	言語聴覚障害学特論2(呼吸リハビリテーション)	8	江里口 康子	兼任
	言語聴覚障害学特論3(地域リハビリテーション)	8	小谷 泉 他	兼任
	専門臨床特論1(臨床運動学)	8	小谷 泉	兼任
	専門臨床特論2(脳神経科学)	8	小野 智憲 他	兼任
	専門臨床特論3(CT・MRI読影)	8	宮村 周人	兼任
	専門臨床特論4(音楽療法)	8	栴田 素子	兼任
	専門臨床特論5(栄養学)	8	吉田 大輔	兼任
	介護保育実習	20	城下 未来	専任
	臨床体験実習	40	田中 美紀	専任
	症例演習	15	末次 由佳 他	専任

【自己評価2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3

	評価基準・方法を明記している。	
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った臨床実習を十分実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った臨床実習を実施していない。	1

【自己評価3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入して下さい。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
医療提供施設その他の見学			
通所・訪問リハビリテーションの見学	1年後期	言語聴覚障害概論	1年前後期
言語療法評価の実践	2年後期	言語聴覚療法診断学	2年後期
言語療法治療技術の実践	3年前後期	失語症、高次脳機能障害、言語発達遅滞など	2年前後期

【自己評価3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者のもとで実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導のもとで実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導のもとで実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導のもとで実習が実施されていない。	1

【自己評価3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	臨床実習の実施にあたっては、臨床実習施設との緊密な連携体制をもって、ハラスメントの予防に努めている。	4
○	臨床実習の実施にあたっては、臨床実習施設との緊密な連携体制をもって、ハラスメントの予防におおむね努めている。	3
	臨床実習の実施にあたっては、臨床実習施設との緊密な連携体制をもって、ハラスメントの予防に十分に努められていない。	2
	臨床実習の実施にあたっては、臨床実習施設との緊密な連携体制をもって、ハラスメントの予防に努められていない。	1

【自己評価4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3

	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制を記入してください。

自己点検・評価組織名	学校関係者評価委員会
委員名（委員長）	学校関係者評価委員
組織の開催頻度	1年に3回
組織の取り組み内容	・年度目標に対する評価や助言
	・中間評価に対する評価や助言
	・学院の自己評価調査結果及び改善策についての評価
	・次年度の教育活動その他学校運営結果の改善に対する助言
自己点検・評価結果の公表	HPで公開(http://www.koyogakuen.ed.jp/rehabili/)

【自己評価4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みがあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教務部
	委員構成等	部長・副部長・各学科教務部員(PT・OT・ST)
	改善の仕組みの実際	教務部会議において定期的にシラバスに必要な追加項目の検討を実施。シラバスの記載内容の吟味を実施。

【自己評価4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

学院として中・長期的な事業計画を踏まえ、自己点検・評価及び第三者評価の結果を単年度計画に盛り込み、学院全体で組織的に取り組んでいる。また、運営会議を実施し、目標達成に向けた課題の具体的な取組みを示し、職員会議にて教職員に周知し取り組んでいる。
